

第5期区民会議の課題及び検討の方向性についての区民会議委員意見

①（仮称）若い世代が住みやすいまちづくり

第1回全体会議及び第1回企画部会(全員参加型のグループワーク)の意見を基に作成

課題名	課題	課題に対する検討の方向性	(参考)これまでの取組	
			区民会議の取組	市や区、地域の取組
子育てに関すること	●子育てフェスタの継続開催について 第1回子育てフェスタが大変に盛り上がり有意義であったため引き続き開催することが必要である。	■第2回子育てフェスタへの関わり方について ・区主催の第2回子育てフェスタに向けて、第5期区民会議としてどう関わっていくか検討できないか。	(第1期) 「子どもの見守り～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～」 ⇒登下校時児童の見守りについて(町内会・自治会など既存組織との連携に向けた仕組みづくり、シニア世代の地域社会への参加に係る仕組みづくりなど) (第4期) 「子育てしやすい環境づくり」 ⇒あさお子育てフェスタを契機とした地域の子育て支援体制の構築(あさお子育てフェスタの継続的開催〔第1回はH26.4.13〕、地域で子育てを支援するネットワークの強化) ⇒子育て世代が楽しめる豊かな芸術文化環境の区内区外への情報発信(子育て世代に向けた情報発信の工夫、子どもをキーワードにした芸術文化のまちづくり)	(区) ○第2回子育てフェスタ開催(H27. 9. 13) ・市民館及び区役所を会場に開催予定 ○子育て支援・企画事業 ・麻生区における子ども関連団体、グループや関係機関の連携を図り、子育てや子どもの育成を地域全体で支援する。 ○こども関連大学連携事業 ・区内及び区に隣接する大学の専門性を活かし、子ども・子育て支援に関するイベントを開催している。 ○こども相談・要保護児童支援事業 ・虐待の未然防止・早期発見・早期対応のために、関係機関や地域との連携を強化し、虐待に対応できる環境を整備する。 ○こども相談窓口 ・0歳から18歳までの育児や発達に関する悩み、児童・生徒の養護、虐待、不登校、いじめ等の問題に対して、保健師、社会福祉職、心理職、保育士等が、関係機関と連携を取りながら支援する。 ○麻生区「子育て支援アプリ」実証実験 ・市(総務局・麻生区)と富士通の連携により、区のイベントや子育て関連施設等の情報を地域や年齢に応じ、きめ細かく情報発信する実証実験を実施(H26.12月末～27.2月末)
	●子育てしやすいまちづくりのための情報発信の仕方について 遊びの情報、公園のマップ等、必要な情報が必要な世代に伝わっていないため、効果的な情報発信についての検討が必要だと考えられる。	■子育て情報の周知方法について ・子育てに関するイベント等、子育て中の世帯への子育てのための情報の周知方法について検討する。 ・地域の中で情報が伝達しにくいので、シニアの子育て養成講座の開催ができないか。		
	●子育てしやすい環境の検討 生産世帯の減少(特に女性)が大きいこと、女性の社会進出のしやすい社会づくりや住みやすい街づくり、また共働きの家が多いことを踏まえ、子育てしやすい社会とは何かを考えることが必要ではないか。 子育てについての不安等を解消する場として親同士の交流を持ち情報を交換することが必要ではないか。	■麻生区の子育て環境について ・子育てグループなどの市民活動団体と連携して、子育てしやすいまちづくりについて検討する。 ・ニーズに応じたあり方を考える必要がある。 ・市民の意識改革、担い手が必要である。(子どもは宝) ・子育て世代のターゲットを変更。(就学前の子ども→小・中学生)		
子どもの居場所づくり	●子どもの居場所づくりについて 現在使用されていない公園や、公園でも遊具等で遊ばずに無言でスマホをしていることから、子どもの外遊びの環境づくり、安心して居られるための居場所づくりが必要ではないか。	■公園のあり方について ・子どもたちが安全に安心して遊べるための地域の公園のあり方や活用方法を検討する。		(地域、団体) ○子育てサロン(民生委員児童委員協議会) ○子育て交流広場(こども文化センター) ○保育園や市民館の遊びの会等の取組 ○子育て自主グループ・サークルやボランティアグループの取組
		■子どもの居場所について ・子どもの居場所として、こども文化センターなどの公共施設の活用方法を検討できないか。 ・外遊びに高齢者の経験を活かさないか。		
若い世代が定住するまち	●新百合ヶ丘周辺のまちのあり方について 地下鉄3号線の延伸をきっかけに、麻生区の顔である新百合ヶ丘の将来のまちのあり方を考える必要があるのではないか。 将来のまちのあり方の検討にあたっては、若者の定住につながるようにする必要がある。	■新百合ヶ丘の将来のまちづくりについて ・将来の新百合ヶ丘駅周辺地域のまちづくりを考える場をつくる。検討にあたっては、短期的にできること、中長期的にできることに整理して考える。 ・また、若者が参加できるようにする。	(第2期) 「文化芸術のまちづくり」 ⇒川崎・しんゆり芸術祭の雰囲気作りなど側面支援について(新百合ヶ丘駅周辺の美化清掃によるイメージアップ) ⇒川崎・しんゆり芸術祭の雰囲気作りなど側面支援について(川崎・しんゆり芸術祭における「市民参加の芸術祭」としての雰囲気づくりなど) (第3期) 「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」 ⇒広報活動の更なる工夫等について(文化担当官の設置、麻生区文化会議の設置など) ⇒施設・設備の充実について(川崎市景観条例の見直しと弾力的な運用) (第4期) 「芸術文化のまちづくり」 ⇒麻生区の「芸術のまち」構想の推進と独自ブランドの確立(活性化に向けた情報発信の強化、有意義な意見交換の場など)	(市) ○都市計画マスタープラン麻生区構想(H19.3策定) ○景観計画特定地区の屋外広告物設置基準が改正(H26.4) ・イベント開催に関する広告の規制緩和 (区) ○しんゆり・芸術のまち推進事業(局区連携事業) ・「芸術のまちづくり」民間推進組織及び芸術関連イベントの支援 ・新百合ヶ丘駅南口バスターミナルの柱を利用した広報事業 ・民間推進組織による地域情報の収集・発信により、芸術のまちづくりの推進体制の確立 ○「あさお芸術・文化交流カフェ」開催(H26.11.12) ・情報交換や交流を目的として、区内で活動する芸術・文化関連団体が集える「あさお芸術・文化交流カフェ」を開催 ○あさお観光資源の魅力紹介事業 ・観光写真コンクールの企画・実施、入賞作品を題材とした記念品の制作 ・麻生観光ガイドブックを発行し、麻生区の多彩な魅力を区民に紹介 ○各種芸術文化事業 ・麻生音楽祭、芸術のまちコンサート、大学連携によるコンサート、禅寺丸柿のイベントなどを開催
	●若者の集う場所づくりについて 若者が定住するためには、若者が集う場所、飲み屋や遊び場が必要であるため、場所づくりやまちのあり方自体を再考する必要がある。	■若者が魅力的に感じるまちづくりについて ・若者が魅力的だと考えるまちづくりについて、考える場をつくる。ワークショップで行うことや、イベントを開催して若者の参加を促す。		
	●若い世代に魅力あるまちについて 若者にとっての魅力あるまちとはどのようなまちかを考える必要がある。			
	●文化芸術の情報発信について 文化芸術を情報発信や収集等をして、高齢者、子育てにも生かせないか。文化芸術を麻生区のまちづくりに生かされていくような提言に結びつけたい。	■芸術のまちづくりについて ・麻生区全体のまちづくりにおける芸術のまちの役割を検討する。		

第5期区民会議の課題及び検討の方向性についての区民会議委員意見

②（仮称）市民活動・地域活動の活性化

第1回全体会議及び第1回企画部会(全員参加型のグループワーク)の意見を基に作成

課題名	課題	課題に対する検討の方向性	(参考)これまでの取組	
			区民会議の取組	市や区、地域の取組
市民活動・地域活動の担い手づくり	●若年層の市民活動・地域活動への参加について 地域活動の中で1番の悩み事である高齢化への対応として、世代の多様化(中・高校生、若者、若い世代)が必要であり、それらの世代を取り込んでいく仕組みづくりが必要ではないか。	■若年層の参加について ・若年層(地元中学生等)や高齢者を市民活動・地域活動に参加する仕組みを検討する。 ・中学生のボランティアと連携を取りながら人材の担い手をつくれないか。 ・ボランティア活動の経験豊富な若者を取り込めないか。	(第1期) 「高齢者が輝くまちづくり」 ⇒元気高齢者の地域参加や高齢者の見守りについて(老人いこいの家の利用促進、地域活動への参加促進など) (第2期) 「市民活動推進」 ⇒地域の市民活動支援の場としての活用について(地域拠点施設としてのこども文化センターの広報など) (第3期) 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」 ⇒担い手の発掘と育成(生涯学習推進会議の設置目的の明確化、区の地域人材育成方針の策定検討など)	(市) ○川崎市市民活動支援指針改訂検討委員会 報告書(H26年11月) ・平成13年9月に策定された「川崎市市民活動支援指針」の検証・見直し等を行うため、平成26年1月に外部委員会を設置し、市民活動をめぐる社会環境の変化や、本市の市民活動支援施策、市内の多様な活動実態などを確認した上で、提言を取りまとめた。 (区、中間支援組織) ○麻生区市民活動支援施設利用促進事業 ・「麻生区市民交流館やまゆり」において、市民運営組織が市民活動支援(市民活動の「場」の提供、交流イベントや講座の実施、市民活動に関する情報提供・発信、市民活動相談窓口など)を実施している。 ○市民活動推進に向けた地域人材の発掘・育成事業 ・地域人材の発掘と育成、市民活動団体へつなげていく仕組みづくりを整備し、市民参加と協働によるまちづくりを一層推進する。 ○「地域人材育成連絡会議」の設置 ・H26年に、地域人材を発掘・育成し、市民活動・地域活動に繋げる仕組みづくりを目的に、関係部署及び関係機関・団体で構成する「地域人材育成連絡会議」を設置した。 ○町内会・自治会への加入促進対策の実施 ・麻生区町会連合会と協働し、加入促進ハンドブックの作成・配布、区町連ホームページの拡充など、地域コミュニティの活性化を図っている。 ○麻生区地域コミュニティ活動支援事業 ・「やまゆり」を通じて、地域の新たなコミュニティづくりにつながる団体からの提案事業に対して、その資金の一部を支援している。(H26年度：7団体) ○麻生区地域課題解決型提案事業 ・地域課題の発見と解決を図るため、地域の団体等から地域課題の解決に資する事業提案を受け、選定された事業を提案団体に委託することで、住みよいまちづくりを推進している。(H26年度：5事業) ○町内会事業提案制度事業 ・地域の担い手である町内会・自治会が行う事業を支援することにより、地域住民のつながりや地域の改題解決力の強化を図っている。(H25年度：5事業)
	●元気なシニアの活かし方について 麻生区には元気なシニアが多いように思えることから、シニア層を活かした地域課題解決の仕組みがあると良いのではないか。	■高齢者の活用について ・市民活動・地域活動に、高齢者の経験を活かせる仕組みを検討する。		
	●参加しやすい市民活動・地域活動について 社会貢献を実行するに当たり、協力者(ボランティア)を集める「しくみ」の構築したい。	■市民活動・地域活用への参加について ・多くの区民が市民活動・地域活動に参加しやすい仕組みを考える。		
市民活動・地域活動の活性化支援	●市民活動・地域活動の情報発信について 麻生区は市民活動が活発でいろいろな情報発信がされているが、区民に届いているか疑問である。このため、情報発信する方法について整理する必要があるのではないか。	■市民活動団体の情報発信について ・情報発信の整理が必要。 ・市民活動団体の有効な情報発信方法、情報発信の支援の方法を検討する。		
	●課題解決におけるやまゆりの役割について 麻生区のさまざまな課題を解決するに当たり、やまゆりにどのような役割があるのか。また、やまゆりが主体となってやるべきこととして何が あるのか。	■やまゆりの役割について ・麻生区のまちづくりにおけるやまゆりの役割を検討する。		
地域におけるコミュニティづくり	●世代間交流におけるコミュニティづくりについて 子育て、居場所づくりを高齢者の生きがいづくりや地域コミュニティづくりのために活かし、またそのためには世代間交流が重要であると考えられる。	■世代間交流による地域コミュニティづくりについて ・地域でいろいろな世代が交流できる世代間交流の場づくりを考える。 ・子どもの居場所づくりから地域活動の活性化の方法を考える。		
	●地域での互助・共助について いざというときに地域での助け合いが重要である。町内会・自治会を中心とした互助・共助の仕組みが必要である。	■互助・共助の地域コミュニティづくりについて ・町内会・自治会をベースに互助・共助の地域コミュニティづくりを考える。		

<麻生区市民交流館やまゆりの現状>(平成26年3月)

施設の利用状況	
平成25年度来館者数	22,125人
利用団体登録数	596団体
会議室の利用状況	平日:1,089件 土日:397件 ※利用率約87%
印刷機の利用団体数	984団体
交流イベント、講座等の実績	
平成25年度実績	27回
市民活動相談窓口及び団体検索サイトの運営	
平成25年度窓口相談件数	57件
団体検索サイト掲載数	220団体

課題名	課題	課題に対する検討の方向性	(参考)これまでの取組	
			区民会議の取組	市や区、地域の取組
高齢者等が住みやすいまちづくり	<p>●地域の見守り体制について 地域の人たちに、見守りが必要な障がい者、高齢者がいることを知ってもらい、見守りの仕組みをつくりたい。しかし、個人情報などの問題で、多くの人に知ってもらうことは難しい状況である。</p>	<p>■地域での見守りについて ・地域による高齢者、障がい者の見守りの仕組みを検討する。</p>	<p>(第3期)「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」 ⇒広報活動(ガイドブック作成や総合相談窓口の設置)、地域の絆づくり(ささえあい・見守りを進めるための具体的な方法の紹介と展開)</p>	<p>(区) ○麻生区版特別号「高齢者福祉特集」の発行(平成25年4月) ・高齢者の相談窓口、生活全般のサービス、シニア向けの地域活動情報などの紹介した区版特別号を発行した。 ○高齢者見守りネットワーク事業 ・高齢者が地域から孤立することを防止し、安心して暮らせる地域社会を形成することを目的として、地域住民、事業者及び区が連携した「安心見守りネット」を運用している。 ○ひとり暮らし等高齢者見守り事業 ・ひとり暮らし等高齢者の安否確認と話し合いの機会を増やすことにより、地域社会で高齢者が安心して日常生活を送ることができるよう支援するため、民生委員児童委員の協力により訪問による見守りを実施している。 ○あさお体験ウォーク事業 ・健康づくりのためのウォーキングを体験することで、歩行習慣のない区民へのウォーキング普及を図っている。 ○公園 de 健康づくり事業 ・身近な公園を利用して、定期的にストレッチ体操やウォーキングを実施し、生活習慣病や介護の予防を図っている。 ○健康づくりのつどいの実施 ・「第2期かわさき健康づくり21」に基づき、麻生区の健康づくり事業の一つとして実行委員会形式による「健康づくりのつどい」を年1回実施し、広く区民に健康づくりの普及啓発を実施している。 ○食生活改善推進員養成教室、運動普及推進員養成教室の充実 ・年間1コース(各4日間)の教室を開催することにより、地域の健康づくり推進のための人材を養成している。 ○介護予防グループへの支援 ・地域で自主的に介護予防活動を行っているグループに対して、介護予防に関する知識向上のための支援を行い、グループの自主性・継続性を助長している。 (地域、団体) ○地域包括支援センターによる高齢者や家族への相談、介護予防等</p>
	<p>●地域の人・高齢者の居場所づくりについて 地域を人の居場所づくり、高齢者の方の地域での居場所づくりが必要である。 障がい者の人も外に出るチャンスが非常に少ない。このため、障がい者の人を外に出す取組を行いたい。</p>	<p>■高齢者等が安全に安心して外出できる環境づくり ・高齢者等が外へ出るきっかけづくり、安心して外に出られる環境を検討する。 ・安全に外出できるように、公共交通機関や道路などのインフラのあり方についても検討する。</p>		
環境に関わる取組	<p>●環境問題について 総合的な環境問題(緑、ゴミ、温暖化、食等)を広く働きかける取組を考えたい。 食品添加物や農薬、その他の化学物質が子どもの脳と心の正常な発達を妨げると報告されている。このようなことを若い世代を中心に知ってほしい。</p>	<p>■環境問題を広く区民に働きかける取組 ・環境問題を広く区民に働きかける取組を検討する。検討にあたっては、環境のどの分野について検討するか絞り込む。</p>	<p>(第1期) 「地元農産物と地域交流」 ⇒「農」を通じての「地域づくり」について(食育を通じての交流、農産物直売所を通じての交流など) (第2、3期) 「エコのまち麻生の推進」 ⇒持続可能な地域社会の創造を目指して(生ごみリサイクルと地産地消で都市農業振興、緑化保全のまちづくりなど) (第2期) 「環境学習」 ⇒麻生区エコカルテの活用について(区内小学校等に配布し、環境学習で活用) (第3期) 「グリーンアップ・里山ボランティア」 ⇒貴重な「緑」の保全活動について(地域に限定されない里山ボランティアの構築、麻生区里山ボランティア事業の推進)</p>	<p>(区) ○農と環境を活かした連携事業(局区連携事業) ・区内にある農業資源(早野・黒川・岡上の農業振興地域、明治大学黒川農場)や緑地などの環境資源を活用し、グリーンツーリズムや農業体験、(仮称)地域コミュニティ農園など、地域活性化や地域交流につながる取組を推進している。 ○麻生里地・里山保全推進事業 ・麻生区に残る里地・里山の自然や文化等を継承するとともに、新しい魅力を引き出し、未来へつなぐことため、様々な団体や個人が連携・協働した取組を推進している。 ○麻生区里山ボランティア事業 ・H24～26年に地域課題解決型提案事業として展開(実施主体は麻生区里ボラの会)。毎回参加者を新規募集し、月1回下草刈りなどの緑地保全作業を実施している。事業を契機に、緑地保全管理団体が1団体新設された。 ○エコのまち麻生推進事業 ・区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、自然エネルギーの普及啓発、親子生ごみリサイクル講習会、緑のカーテンの普及など、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」の推進している。 ○市政だより区版特別号(H25年7月) ・生ごみ減量や環境イベントを特集したを発行。部数77,200部。全世帯ポスト及び区内公共施設で配布した。さらに、H25年7月から9月にかけて、区内の環境イベントへの区民参加を促すための「あさおエコクイズラリー」を開催した。</p>
	<p>●まちの活性化に農業を活かせないか 麻生区の地域資源である農業をまちの活性化に活かしたい。</p>	<p>■農業のまちづくりの推進 ・麻生区の地域資源である農業を多くの人に知ってもらい、麻生区の活性化に活かす。 ・麻生区の農業を知ってもらう機会づくり ・麻生区産の野菜を食べてもらう機会づくり</p>		